

第4回中播磨新地域ビジョン検討委員会 議事録

1 日時 令和3年7月30日（金）16:00～18:00

2 場所 姫路総合庁舎 504・505 会議室

3 意見交換の内容

〈委員〉

骨子案はよくまとめられており、内容について賛成である。問題点についても良い部分を取り上げていると思う。課題として、高齢者と若者の縦のつながり、近所同士の横のつながりの関係が現在は薄れている。若い元気なうちはいいが、年を取ってきた時には助け合いが必要になる。そうした助け合うことができる社会がこのビジョンで実現していければいいと思う。今以上に地域コミュニティにおけるつながりの希薄化が進まないことを望む。

〈委員〉

骨子案への意見として、基本姿勢のキャッチコピーについては、現行案が良いと思う。現行案は違和感があると同時に、斬新で良い。キャッチコピーはインパクトのある方が目を引き、立ち止まり、手に取ってもらえると思う。世界遺産を「ひと」と読ませるキャッチコピーは他にはないと思うので、あえて取り入れてみることで、人を引き寄せる魅力になるのではないかと感じた。姫路城は、兵庫県で唯一の世界遺産であると同時に、日本で初めての世界遺産であり、オンリーワンの自慢すべきことだと思うので、日本初という文言も趣旨か説明文のどこかに入れてみてはどうか。また、個性と書いて「ちいき」、世界遺産と書いて「ひと」と読ませる案について、この両方を使うのも悪くはないが、「ちいき」の方はあえて「個性」と書かずに「地域」とそのまま書いた案にしてもいいのではないかと思う。サブタイトルについては、現行案、変更案のどちらでもいいと思うが、変更案は、大学生からの発案ということもあり、ポジティブな感じがする。取組の方向性については、多文化共生のキャッチコピーが「みんな違って当たり前！」となっているが、「みんな違ってみんな素敵！（或いはよい）」などにすると、柔らかさが出るのではないか。

本文については、「姫路城に続け！地域資源を磨く」の項目の中で、地域資源の例示として、銀の馬車道等が挙げられているが、中播磨の大切な地域資源の一つにロケ地もある。姫路城の他にも書写山や砥峰高原など有名な数多くのロケ地があるので、それらも加えてみてはどうか。

骨子案についての全体的な感想として、前回会議での委員からの意見やビジョンを語る会等での県民意見がうまく反映されていて良いと思った。

本体案の表紙については、高校生が描いたイラストを掲載するという案に賛成である。その際に16個描いてもらうのであれば、表紙にすべて掲載した方がいい。そしてサイズもすべて同じにした方がいいと思う。イラストをアイコンとして活用することで、パラパラとページを開いたときに、自身の興味のある分野に進みやす

い形になっている。また、SDGs のアイコンを入れることで、この分野は国際的な開発目標のどれに該当するかも確認できていいと感じた。

ページの流れについては、表紙、目次の後に基本姿勢と 16 の取組の方向性があり、そこからそれぞれの詳細ページに読み進められるようになっていて、丁寧で分かりやすいと感じた。中身も、個々人が興味の沸くものや自分と照らし合わせられるもの、また 30 年後に自分たちの暮らす地域がこんな素敵な地域だったらいいなと、身近な課題として感じさせるものが入っていていいと思った。

いかにして情報発信、魅力発信をしていくかが重要になってくるので、表紙のデザインに若い世代である高校生のイラストを使うことで、手にとってもらうことが期待できると思う。

〈委員〉

骨子案の基本姿勢のキャッチコピーについて、現行案の趣旨はすごくいいと思うが、「世界遺産」という言葉が出ていなくてもいいと思う。

変更案 1 が素直でシンプルでいいと思うが、サブタイトルの「え？中播磨でできないことある？」については、できないことはいくらでもあると思うので、あまりピンとこない。サブタイトルの代替案として、「人がめぐり・活躍し・認め合い・支え合う地域へ」などはどうか。

変更案 2 の「人も地域も世界遺産、みんなが輝く中播磨」については、人や地域を世界遺産に例えることがおこがましく、偉そうに感じる。人も地域も、今を頑張っている現在進行形のものであり、世界遺産という古いもの、過去のものに例えることやつなげることに違和感がある。

将来像の分野の括り方について、「多文化共生」分野を「つながり」の柱に持っていき、「地域福祉」分野と「健康づくり・医療」分野を一本化したことは、妥当な修正案でいいと思う。取組の方向性については、「農林水産業」分野のキャッチコピー「みんなが担い手！多様な農林水産業で暮らしを支える」は、「みんなが担い手」という部分に違和感があり、しっくりこない。また、「地域コミュニティ」分野のキャッチコピー「祭りで団結！ご近所力を高める」については、みんなが秋祭りを好きなわけではないので、「祭りで団結」というのは無理やり感がある。「芸術文化・伝統文化、ふるさと意識」分野のキャッチコピー「ヨイヤサ！伝統文化を次代に受け継ぐ」の「ヨイヤサ」は非常に良い。すごく良いので、ここに使うのはもったいないくらいで、基本姿勢のキャッチコピーに使ってはどうかと思う。

骨子案の本文については、資料 4 の 1 ページ「時代の潮流・背景」に、「超高齢化」とあるが、「超高齢化」という言葉はあまりなじみがないので、ここは「超高齢社会」にしてはどうか。また、2 ページの「中播磨地域の現状・課題」にある「人材不足・後継者不足」の項目の中に、「高齢社会を迎えるにあたり」とあるが、高齢社会は、もうすでに迎えており、今はすでに超高齢社会になっているので、ここは「超高齢社会において」という表現に直した方がいい。

SDGs については、SDGs のアイコンを、無理やり取組の方向性に合わせている感が否めない。流行に飛びつくのはよくない。SDGs にこだわる必要はない。使うとしても、色合いが少し出せるぐらいがいいのではないかな。最近、流行のように各地方

公共団体が総合計画等に関連づけて、SDGs のアイコンを表示しているが、SDGs の目標は大き過ぎて漠然としているので、自治体の計画やビジョンに当てはめるのは少し無理があると思う。今回もこの SDGs の目標と取組の方向性が良いところを打ち消し合っているように思う。本体案についてもやはり SDGs が邪魔をする。SDGs のアイコンを入れるなら、その代わりに関連写真等を入れた方がいいのではないか。

〈委員〉

基本姿勢のキャッチコピーについて、前回の会議で「世界遺産」を「ひと」と読ませる部分はキャッチで良いと発言したが、いろんな方の意見を踏まえると、私は変更案1が、聞こえは変わらないが、文字を見たときにシンプルであり、文字数も一番短く、伝わりやすいと感じた。だが、サブタイトルについては、大学生の意見ということではあるが、私自身は少し腹に落ちておらず、これが本当にいいのかという感想を持った。先ほどの「何でもできると言いながら、できないこともある」という意見は確かにそのとおりだと思ったので、少しここは検討した方がいいのではないかと考えている。シンプルに現行案のサブタイトルでもいいのではないかと考える。取組の方向性の各項目のキャッチフレーズを動詞主体に変えた点については、「こうしたい」「こうする」という強いメッセージ性が出たので、非常に良い。

骨子案については、SDGs のアイコンを採用したことで、ビジュアル的には非常に見やすく、分かりやすくなったと思うが、アイコンが非常に小さくなっており、見にくいので、ここは少し改善した方がいいと思う。

本体案については、1 ページで全体像を見せ、2 ページ以降で分かりやすく説明しているが、合わせて見開き2ページで見られるような形にした方がいいと思う。まとまるのであれば、目次兼参照先への誘導という形の方が、見る人にとって、簡潔で、次に自分が見たいところが分かりやすいのではないかとと思う。

イラストの活用は、視覚的に非常に分かりやすく、SDGs のアイコンを重ねることで、中播磨のビジョンらしい仕上がりになっていくと考えている。

〈委員〉

本会では基本姿勢のキャッチコピーは、サブタイトルをつけることを前提条件として検討しているが、サブタイトルをつけない選択肢もあるのか。

〈事務局〉

現行のビジョンにサブタイトルがあるので、それに倣って付ける前提で検討しているが、マストではない。

〈委員〉

では、前例にとらわれない方向で委員の皆さんの意見を聞きたい。

〈委員〉

柱立て案については、すごく良いなと最初に感じた。先ほども意見があったように最初に目に入ったのは、やはり「え？中播磨でできないことある？」のサブタイトルであった。これはすごく目を引くが、少し違和感があると感じた。今後もう少し訂正・修正していき、何かいい案があれば、変えていくのも一つの方法かと思っている。文字数と分かりやすさでいうと、変更案1がいいのではないかとと思う。私は神崎郡の一番奥にある神河町出身であるため、姫路という町が同じ中播磨であり

ながら、少し違う町に感じてしまう。神崎郡の一番奥でも同じ中播磨の人間だということアピールできれば、もっと若い人たちにも理解してもらえるのかなと思い、「世界遺産」という言葉に少し引っ掛かりがあった。取組の方向性のキャッチコピーについては、前回からとても変わっており、良くなったと思う。特に「Re デザイン！快適なまちをつくる」が良い。こういうプラス志向で未来に対して希望が持てるようなキャッチコピーはすごく良いと思う。

骨子案の修正案は、前回までの会議で多くの意見が出されたことで、すごくまとまりが良くなったと思う。「みんなが担い手！多様な農林水産で暮らしを支える」では、今、カーボンニュートラルが問題になっており、山は今後、地域の財産になってくると思うので、その辺りも少し入れてはどうかと思う。「みんな違って当たり前！多様な文化を認め合う」では、LGBTについても入れることで、より多くの人に知ってもらえる機会になればと思う。また、「伝統×革新！ものづくり力に磨きをかける」の取組アイデア案において、「伝統×革新」と言いながら「伝統」があまり前面に出ていない。地場産業など伝統に関する取組アイデア案も加えてはどうか。

中播磨ビジョンの見せ方及び PR については、やはりイメージイラストはすごく良いと思う。本体案については、表紙など文字のフォントが、堅苦しく感じる。文字のフォントも変えていくと、分かりやすく、受け入れられやすくなるのではないかと思う。SDGs のアイコンがあるが、ぱっと見て、意識の高い人には SDGs だと分かってもらえると思うが、あまり意識をしていない人は何か分からないかもしれない。SDGs の説明等を入れることで、家族内で SDGs について話すきっかけになり、もっとつながりが深くなるのではないかと感じた。

〈委員〉

基本姿勢のキャッチコピーについては、私も変更案 1 が一番読みやすく、ぱっと見て、どの世代の人でも分かりやすいと感じた。サブタイトルについては現行案のままでもいいかと思う。全体的な印象として、よく出来ていると思っている。

骨子案の修正案については、1 ページの「本格的な人口減少」の部分に、兵庫県の人口を挙げているが、中播磨のビジョンなので、例えば中播磨の人口を書く方がいいのかなと思う。全体的に中播磨のことをずっと議論しているので、できれば 2050 年の中播磨の人口が分かるようであれば入れてみてはどうか。

12 ページの「Re デザイン！快適なまちをつくる」の取組アイデア案について、アイデアの 2 つ目に「市街化調整区域を市街化区域に見直し、住宅を建設可能な地域を増やす」と書かれているが、これは何か意図があって入れているのか。市街化調整区域を市街化区域に変更して、住宅を増やし人を集めるという趣旨で捉えたが、この辺りの考え方はどうなのか。他方では空き家問題があり、全く使われていない土地が荒れ果てていることも謳われているが、ここでは逆に宅地への見直しを積極的に行うという感じの内容になっているのが、どうなのかなと思った。

〈事務局〉

すべての市街化調整区域を一律で市街化区域に変更するという趣旨ではない。現状の市街化調整区域・市街化区域の区分けが、地域の実情に合っていないところについては、柔軟に見直していくというニュアンスで書いている。

〈委員〉

どちらかと言うと、行政主導で決めるイメージが取れたので、表現の仕方を少し変える方がいいと感じた。

〈委員〉

市街化調整区域と市街化区域の関係では、文言として「市街化調整区域と市街化区域の関係を長期的ビジョンに立って検討する」や「地域全体の総合的な観点から土地利用のあり方を検討する」等の表現がよりふさわしいのではないかと。

〈委員〉

まず柱立て案については、前回も言ったが、中身を見てもらうことが重要であるため、ポップさ、見てもらいやすさが一番大事かなと思っている。その観点で考えると、基本姿勢のキャッチコピーは変更案1が、字体として見たときに、一番物々しくなく、入って来やすいかなと思った。サブタイトルも、そういう観点で見ると「え？中播磨でできないことある？」はすごく良いと思うので、個人的には変更案1が良い。取組の方向性は、「姫路城に続け！」や「みんな「おかえり」！」、「積極アピール！」等を入れたことによって、より見やすく、分かりやすくなったので、すごく良いかなと思っている。骨子案の修正案は、これまでの会議での意見がうまくまとめられている印象を受けた。

また、本体案の表紙は、イメージイラストが入ると、もっと見やすくなり、より見てみたくなるイメージが出るのだろうと思っている。目次がやや堅く、普通なので、目次もより見やすくし、この表紙の感じに合ったものにしてもらいたい。表紙をめくってこの目次だと、従来と同じ堅い読み物の印象を与えてしまうと思う。全体的にイメージイラストで表現するのが、分かりやすくていいかなと思う。

〈委員〉

基本姿勢のキャッチコピーについては、他の委員が言われているとおり、変更案1は非常にすんなりと入る部分があるが、私は「世界遺産」という言葉も捨てがたいという気がしている。やはり世界遺産・姫路城は中播磨地域のシンボルであり、「世界遺産」は他の地域と差別化するための一つの言葉と位置づけることができると思う。サブタイトルについては、「え？中播磨でできないことある？」は、非常に良い言葉だと思う。新しいビジョンを作っていくということは、30年後の将来に向けて、期待感を持って作っていくことを前面に出すのも一つの大きなテーマだと思うので、今はできないことがあるかもしれないが、30年後にはそれが実現している。そのためのビジョンなんだというサブタイトルの位置付け、意味合いがあってもいいのかなと思う。また、取組の方向性については、前文が入って、端的な言葉でインパクトがあり、非常によくまとまったと思っている。

骨子案については、「姫路城に続け！地域資源を磨く」の内容で、少し引っ掛かるところがある。中播磨地域には、姫路城とともに、1市3町にまたがる日本遺産・銀の馬車道がある。地域資源の例示として括弧書きの中に書くのではなく、外出しで記載する方がいいと思う。9ページの「みんな「おかえり」！温かく迎え入れる」の取組アイデア案において、空き家の部分に修正が少し加わっている。「再利用できない空き家は、サバイバルゲーム場として活用」というのも新しい発想だと思う

が、ここまで書き込むのはどうなのかと疑問に思う。いろんなアイデアという意味ではいいのかもしれないが、もっと違う活用の仕方もあると思う。全体的なバランスを見ても、ここだけ具体的な言葉が入り過ぎたかなと思う。

本体案について、SDGs のアイコンが入ったことによって、世界的な問題に地域を挙げて取り組むということが表現できると思う。ただ、このままだと非常に分かりにくいところがあるかもしれないので、一番最後にそれぞれのアイコンが何を意味しているのか、簡単な説明を付け加えることでより分かりやすくなっていくと思う。

また、最終的に印刷物の形で県民に見てもらおうにあたり、イメージイラストがどういう形で出来上がってくるのかにもよるが、写真をもう少し活用してもいいと思う。特に、最初の方は写真のスペースを多く取っているが、後半になると写真スペースがなくなってきたと感じる。タイトルに合う写真が撮れるか撮れないかという問題もあると思うが、写真があることで、これは私たちの地域のことが出ていると、より親しみを持ってもらうことにもつながるので、検討をお願いしたい。

〈委員〉

文言として「サバイバルゲーム」は、削除でいいのではないか。その後の「発想の転換により新たな活用方針を見出す」の前に、例えば、「適正な維持管理を進めるなど」いう文言があると、より分かりやすくなると思う。

〈委員〉

基本姿勢のキャッチコピーについては、「世界遺産」を「ひと」と読むところが、とても抵抗がある。「世界遺産、人が輝く姫路シティ」だとスッと入って来るが、私は神崎郡に住んでいるので、姫路市のイメージが強い現行案よりも、変更案1の方が無難な感じがする。サブタイトルについては、どちらも分かりやすいと思う。やはり「え？中播磨でできないことある？」とクエスチョンにすると、何かな？と見てもらえると思う。ひねくれて考えると「できないことはたくさんある」と思ってしまうが、純粹に言葉として見るとインパクトがあって良い。

本体案については、初めにメインの柱立てがあり、自分の興味深いテーマのページに飛べる構成になっているので、非常に使いやすいと思う。

SDGs については、達成年限は 2030 年なので、2030 年以降、このアイコンが通用しているのかということも考えておかないといけない。確かに SDGs を読むと、100 人いたらほぼ 100 人が肯定するような良いイメージがあるが、もう少し考えないといけないこともあると思う。SDGs のアイコンを入れると、すごいものだという権威のようなものが先に出てしまい、このビジョンはそれに見合うものなのかと比較検討される恐れもある。この辺りのところは、もう少し議論した方がいいと思う。

出来上がったビジョンの使い方が重要。新地域ビジョンを誰がどのようにして広めていくのか。広がっていき、各地域でこのビジョンを参考にしながら地域づくりが行われるような風土になればいいなと願っている。

〈委員〉

SDGs の扱いを分けた方がいい。現行の案では、SDGs が主役になってきている感じなので、あくまでもこのビジョンではイラストを主役にした方がいい。その上で「我々の活動は世界的な目標にも関わっている」という補足的な扱いとして、SDGs

に触れる。そうすることで SDGs とビジョンの目標年次の違いも、処理できるのではないかと思っている。

〈事務局〉

SDGs はあくまで参考であって、メインは取組の方向性のキャッチコピーであり、イメージイラストである。各取組の方向性が SDGs の目標だとこれに該当する、と参考に書いている扱いなので、目標年次の違いについては問題ないと考えている。

また、先ほどから指摘があった本文における SDGs のアイコンが小さ過ぎるということについては、大きさをいろいろと試してみたが、大きくすると SDGs が主になり、SDGs のための、SDGs に引っ張られたビジョンになってしまう。冒頭に大きくアイコンを入れているので、番号が読めれば分かるのではないかと考え、あえて少し小さくしている。これ以上大きくすると、SDGs のことを書いているような形となり、主従が逆転してしまうため、こういったサイズ感にした。

〈委員〉

SDGs を使っている狙いは、書いておいた方がいい。SDGs の説明と今回のビジョンとの関係性について書いている方が親切かと思う。

〈委員〉

基本姿勢のキャッチコピーについては、私も変更案 1 がシンプルで分かりやすいと思う。変更案 2 は、「人も地域も世界遺産」という部分が、少し意味が分かりにくく、違和感がある。4つの将来像や取組の方向性については、分かりやすくインパクトもあって、上手く出来ていると思う。

骨子案については、5ページの「積極アピール！魅力や情報を発信する」のところで、「高水準の ICT インフラを整備するなど ICT 環境の高度化を図ることで」とあるが、繰り返しになり、くどい印象がある。9ページのサバイバルゲームは、文字にすると生々しい感じがするので、私も削除した方がいいと思う。

本体案については、1ページの柱立ての表に分野が記載されているが、この分野が次のページから全く出てこなくなる。分かりやすくするために記しているのであれば、2ページ以降もそれぞれ分野を記す方がいいのではないかと思う。また、2ページ以降の説明と1ページの柱立ての表が対応しているのであれば、表の取組の方向性に①から⑩まで番号付けをした方が、見つけやすいのではないかと思う。

14 ページ以降の取組の方向性の説明部分について、将来像単位か取組の方向性単位で、改ページをした方がいいと思う。現行の案では、ページを区切らず続けて書いているが、写真の大きさなどを工夫すればスペースの調整はできると思うので、できれば取組の方向性単位で改ページできたらと思う。紙面の都合上、無理があるなら、将来像単位でもいいので、改ページできたら見やすいのではないか。また、現状では写真の枠が全て統一され、同じような記載になっているが、大きい写真や小さい写真など、サイズを変えた方がインパクトが出るのではないかと思う。

〈委員〉

基本姿勢のキャッチコピーについては、世界遺産に対する各地域の思いがあると思うので、皆さんの意見を踏まえて、変更案 1 にするのか、現行案にするのかを判断してもらえたらと思う。サブタイトルの「え？中播磨でできないことある？」に

については、「実際にできないことが多い」という意見と、そうではなく「中播磨全体で見た場合、実はできることがたくさんある」という両方の意見があると思う。その中で30年後までこのサブタイトルを使うのであれば、30年後にはできないことが多くならないように頑張っていくという意味合いを込めて、ハードルを高く設定するつもりで、このサブタイトルを採用するという考え方もできる。

柱立てについて、「情報発信・魅力発信」を追加し、中播磨地域のいろんな魅力をしっかりと発信していく必要があるということが謳われているが、外部への発信だけではなく、中播磨地域の中の住民に向けても発信していく必要がある。普段、当たり前だと思っていることが、全国的・世界的に見ても、実はとても魅力のある恵まれた資源であることを、ICTなどを使って地域住民にも発信していく必要があるのではないかと思う。

SDGsについては、姫路市も今年4月に策定した今後10年間の総合計画の基本構想にSDGsと各政策との関連を入れるかどうか検討したが、結局は入れなかった。その結果、なぜ入れていないのかと言われることもある。行政のビジョンにSDGsを入れることの意味や目標年次との整合性など、これから考えていかないといけないことは多いと思うが、民間ではSDGsの達成に向けた取組を行うことがビジネスをする上で大前提となりつつある。県民に知ってもらい意味や、世界の動きとつながる意味でも、やはりSDGsの表記は何らかの形で入れるべきではないかと感じている。

一方で、国連ももともと2015年を達成年限とするミレニアム開発目標の後継としてSDGsを採択しているので、2030年以降には、また新しい目標が出てくるのではないかと思う。また、地域ビジョンも今後改訂の機会があると思うので、その時にまた新しい動きを踏まえて見直しをすることとし、今の動きは動きとしてきちんと県民に分かるように書いたらいいのではないかと思う。

〈委員〉

基本姿勢のキャッチコピーは、「世界遺産」を使うと姫路という地域性が出る。そういうことから考えて、例えば「世界遺産」を強引に「ひと」と読むのであれば、私だったら「みらい」と読ませる。遺産があるからこそ未来がある。遺産＝資源だと思っている。その資源を上手く活用できていないのが、この中播磨だと思う。

サブタイトルについては、私は要らないと思う。私は県外の人と付き合うことが多いのだが、「え？中播磨でできないことある？」と言うと、「できないことはたくさんある、何を言っているんだ」と思われ、ダメージが大きい。それだけ我々は、資源を持っているが、訴求力がないと思う。

柱立てについて、農林水産業のキャッチコピーに「みんなが担い手！」とあるが、すごく違和感がある。そんな生半可なものではない。私も、昨年からは農業を始めて、大変な苦勞をしている。農林水産業はスペシャリストでないとできないと思う。

また、先ほどから出ているSDGsについては、現時点での話だということで、SDGsを使うのはいいが、30年後には内容が変わっていると思う。使うのであれば、SDGsを使う意味を必ず入れないといけない。

先ほどから言っているように中播磨にはすごく資源がある。また、人口減少は避けて通れないことで、マイナスばかりではないと思う。過疎が進む地域にどんどん

好き勝手に家を建てると、行政サービスも対応が難しくなるので、必ずコンパクトシティのような発想が必要になる。そこには夢ばかりではなく、犠牲にするものもなければいけないと思う。そういった発想の中で、資源化できるものがたくさんある。例えば、食料ナショナリズムは、私が農業を始めたきっかけであり、これから必ず来ると思う。日本は食糧自給率が4割を切っている国なので、今後、気候変動等で海外からの食糧の輸入が止まったら、たちまち農地が武器になってくると思う。林業もマイナスばかり考えるのではなく、資源だと考えることも大事だと思う。

〈委員〉

基本姿勢のキャッチコピーについては、現行案でも変更案でも、ほとんどこだわりは持っていない。「世界遺産」という言葉が入るか入らないかで皆さんの意見が分かれているのかと思ったが、極端なことを言うと、30年後に中播磨という地域が存在しているのかどうかすら分からないことを考えると、「世界遺産」という地域を示すランドマークは必要ではないかと思う程度で、特にこだわりはない。

また、全体としては、上手くまとめられており、特に気になるところはないが、何点か気づいた点をお話しする。まず、交通分野の本文の「道路網の整備や鉄道（播但線、姫新線等）の維持等による一次交通の充実を図る」について、これから維持していくのも大変だが、維持と「活用」が必要なのではないのかと思った。また、中播磨という括りの中に山陽電鉄は入れなくてもいいのかなとも思っている。

同じく交通に関して、新しいものばかりが列記してあるが、基本的なところで、例えばレンタサイクル等も出ているのでサイクル道の整備や、信号機もこれからラウンドアバウトに変わってくるという方向性で、交通系のラウンドアバウト（環状交差点）という言葉、鉄道に関してはパーク&ライド、サイクルトレイン、またゾーン制の運賃といったことも、どこかにあって欲しいと感じている。

また、全体の中で、柳田國男に代表されるような文化人の取り扱いや、文化についての項目が少し薄いかと感じた。どういう表現の仕方にするかは非常に様々な議論があると思うが、もう少し中播磨の文化人を取り上げた部分があってもよいのではないかという気がする。

〈委員〉

まず、SDGsの話だが、先ほど言ったように、ビジョンが目指すところとSDGsが目指すところにはズレがあると思う。SDGsは、地球温暖化や貧困、ジェンダー等の世界的な課題に全世界が一丸となって取り組むものであるため、少しズレが出る。そのため、例えば、骨子案で言えば、第8章を設けてはどうか。第6章の取組の方向性のところにはSDGsを記載せず、第8章を設けて、その中でSDGsに触れる趣旨を説明し、その上で「16のそれぞれの取組はSDGsという枠で見ると、こういう対応関係になっています」という見せ方をすればいいのではないか。特に個人的にSDGsに足りないと思っているのは文化である。SDGsには文化という要素、特に伝統文化を守り伝えていくという目標が書かれてない。だが、我々の地域にとって文化はすごく重要なことである。そのような目標のズレがある。例えば「ヨイヤサ！ 伝統文化を次代に受け継ぐ」に該当するSDGsの目標は1つしかないが、この取組の方向性に価値がないのではなくSDGsにはそういう価値観がないということ。こ

うしたことを踏まえて、ビジョンとSDGsを区別する形で掲載してはどうかと思う。

地域ビジョンで一番大事なのは、16の目標だと思うので、それに対応させるイラストが主役になっていくのではないかと思う。この16の目標をどのように言うかだが、現行の「将来像を実現するための取組の方向性」は非常に長いので、もっと端的な表現で言えないかと思っている。例えば16の「行動目標」などはどうか。主役にならないといけないところなので、「取組の方向性」と長く言うよりも「行動目標」と分かりやすく言った方がいいのではないかと思う。

その延長線上で少し気になる表現が「多様な働き方」分野と「地域福祉、健康づくり・医療」分野のキャッチコピーである。それ以外のキャッチコピーは、「地域資源を磨く」「温かく迎え入れる」「情報を発信する」といったように、〇〇を〇〇するという形になっている。「この目的のためにこんな行動をする」という表現になっているが、「多様な働き方」は「自分らしい働き方で輝く」という自動詞になっており、目的語がない。目標のために、〇〇を〇〇するという表現になっていないので、行動目標としての表現になっていないのではないか。同じように「健康に暮らす」も、そのためにどうするのか、こういう状態になるために何をどうする、という表現にするべきではないか。その点を全体的に揃えたいと感じた。

最後に基本姿勢のキャッチコピーについてだが、このキャッチコピーは議論が尽きず、ずっと続いてしまうのではないかと思う。どちらかと言うと、キャッチコピー1つにすべてを託すのは酷かなと思っており、むしろ16のイラストを非常に魅力的なものにしていけたらいいなと思っている。キャッチコピーはそんなに無理しなくてもいいと思う。基本姿勢において、キャッチコピーの表現以前に何を伝えたいのかと言うと、それは「多様な地域があって、そこでみんなが輝いている」ということだと思う。そういう意味では「多様な地域に、みんなが輝く中播磨」が、一番無理がないと思う。その分インパクトはなくなるが、イラストで補う・イラストに活躍してもらおうのが、いいのではないかと思っている。

サブタイトルの「え？中播磨でできないことある？」については、できないことがあることが駄目なような印象を与えてしまっている気がする。地域それぞれ違うということは、「ここにはあるけど、ここにはない」「それぞれの地域に強み弱みがある」ということで、それがむしろ当たり前のことである。何でもここでできると言うってしまうのは、多様な地域を認めることと矛盾していると思う。そういう意味では「そのための16の行動目標」といった行動目標の中身の話へ誘導し、スムーズに読み進めていけるようなサブタイトルにするのがいいのではないかと思う。

〈委員〉

委員として意見を言わせていただく。この先、時間をかけていろんな人がこのビジョンをご覧になるだろう。ゆえに、中播磨だけでなく、広く県内の皆さんがご覧になることを前提としてこのビジョンは作られるものだと思う。委員の皆さんにご議論をいただいた新ビジョンが、より多くの地域社会の皆さんに正しく伝わり共感していただくことが大事だと思う。そういう意味で新ビジョンの文言や表現は地域に根付いた地に足のついたものがふさわしいと思う。

基本姿勢のキャッチコピーについては、個人的な考えになるが、変更案1が主タ

イトルでいいのではないかと思っている。先ほど申し上げたようにサブタイトルは無くてもいいという気がしているが、あえてサブタイトルを付けるなら、現行案のサブタイトルでいいのではないかと思う。

新地域ビジョンの見せ方について、イラストを採用するのはとても良いアイデアだと思う。イラストを通じた伝達効果は大きく、おそらく新地域ビジョンを皆さんに伝える役割も担うと思う。出来上がるのは1月頃になるとのことだが、できるだけ早い時期に、メールでもいいので、この委員会メンバーで共有できればと思う。我々が期待している新ビジョンとイラストのイメージが一致することを期待したい。イラストの作者となる高校生の皆さんと頻りにやりとりをして進められると思うが、新地域ビジョンの目指すべき目標や、当検討委員会での議論を事務局からも伝えていただき共有してもらいたい。

取組アイデア案については、これまでに本委員会とは別途開催された意見交換会等での参加者の意見がベースにされている。基本的には意見交換会などに参加された皆さんの求める地域の将来像や夢が披露されたものだと思う。この取組アイデア案の生まれた背景や、新ビジョンでの位置付けは本文にも明記されるべきだ。

取組アイデア案には斬新で一步踏み込んだアイデアが披露されていると思った。これらを新ビジョンでの取組アイデア案として記載する際は、個々の妥当性や実現可能性、また事実関係の確認も必要ではないか。基本的なファクトチェックを含めて、県関係機関の関連部局にチェックしていただくのも一つの方法ではないか。

〈委員〉

「個性爆発！学びとチャレンジを応援する」の取組アイデア案の「教師の負担を軽減するために」という表現が少し引っ掛かる。学びをサポートするのが目的であって、「教師の負担を軽減するため」という言い回しは少し違うのではないかと感じた。言い方を少し変えた方が、もっと分かりやすいのではないかと思う。

〈委員〉

今日は骨子案を確定させる予定だったが、細部にわたる文言の確定は今のところ難しいと思う。一度、事務局で皆さんのご意見を基に調整をいただき、次回に確定案を提案いただくのはどうか。

〈事務局〉

骨子案を8月中に確定させないといけないので、本日の議論を踏まえて修正したものをメールで確認いただき、さらに意見があれば反映させる形で、8月中を目途に骨子案を確定させたいと思っている。さらに議論が必要な点については、次回以降、本体案を議論する中で検討していきたいと考えている。

〈委員〉

委員としての一つ一つの意見が骨子案の確定版に反映されるかどうか分からないが、事務局で全体のバランスを見ながら調整していただく方針で、我々としては、事務局に一任をするという方針でいかがでしょうか。

〈全委員〉

異議なし。

(以上)